

教育プログラム・コースの概要

大学名等	福島県立医科大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	小児腫瘍学コース（正規課程）（テーマ③）						
対象職種・分野	医師・小児外科						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・小児・AYA世代の血液腫瘍に対する薬物療法、造血細胞移植療法について理解し、実践できる医師。 ・小児・AYA世代に好発する固形がんおよび肉腫などの希少がんに対する薬物療法、放射線療法、外科療法、造血細胞移植を集学的治療としてコーディネートし、個別化医療を実践できる医師。 ・治験や特定臨床研究の倫理的、法的枠組みを理解し、実践できる医師。 ・小児がんのトータルケアを理解し、教育・復学・就労支援、家族兄弟支援、緩和ケアなどに積極的に対応できる医師。 ・小児がんに関連した基礎研究を行い、分子生物学的病態、薬理作用などへ深い理解を有する医師。 ・ゲノム検査をうまく活用し、適切な分子標的療法や治験への参加をコーディネートできる医師。 						
修了要件・履修方法	単位取得（30単位） 特論4単位、特別研究演習8単位、研究指導4単位、共通必修科目2単位、選択科目12単位かつ、博士論文審査と最終試験の合格。						
履修科目等	（必修科目） 腫瘍専門医特論（4単位）*、腫瘍専門医特別研究演習*（8単位）、研究指導（4単位）、共通基盤教育科目から2単位（総合人間学特論1単位を含む） （選択科目） 医学特論演習（10単位＝5科目）、大学院セミナー**（2単位＝20回聴講、ポスター発表） *臨床腫瘍学特論I～II（4単位）、臓器別臨床腫瘍学特論（4単位）、腫瘍関連学際領域特論（2単位）次世代腫瘍予防学特論（2単位）を含む。**がんプロセミナー含む						
がんに関する専門資格との連携	小児血液・がん専門医（日本小児血液・がん学会）の研修施設として認定。						
教育内容の特色等（新規性・独自性等）	<ul style="list-style-type: none"> ・難治血液腫瘍に対する造血細胞移植（ハプロ移植）の症例が多く、再発・難治血液腫瘍の治療について学ぶことが可能である。 ・難治症例の治療を通じて、緩和医療や在宅支援、終末期医療などの経験を積むことが可能。 ・多職種（各科医師、看護師、ソーシャルワーカー、移植コーディネーター、養護学校教師、薬剤師、栄養科職員など）が参加するTumor Boardを通じて教育や生活の問題、科医環境の問題などについて議論し解決に至る過程を学ぶことができる。 ・核医学治療施設が充実しており、α線核種を使用した、副作用の少ない新規核医学療法の治験などの経験も可能である。 						
指導体制	<ul style="list-style-type: none"> ・福島県立医科大学および附属病院小児腫瘍内科、関連臨床腫瘍学分野教授以下の教員4から5名が中心となり指導する。 ・小児AYA長期支援センター職員（看護師含む）や養護学校の教員なども指導にあたる。 						
修了者の進路・キャリアパス	<ul style="list-style-type: none"> ・小児血液・がん専門医取得後は小児血液・がん指導医を目指しさらに臨床経験を積む。 ・造血細胞移植認定医（日本造血・免疫細胞療法学会）に取得を目指し、造血細胞移植の経験を積む。 ・専門分野（血液腫瘍、造血細胞移植、小児固形腫瘍、小児からAYA世代の骨軟部肉腫、長期follow upなど）を確立し、臨床研究や治験、新規薬剤の開発などへ積極的に参加する。 						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	1	1	1	1	1	5
受入目標人数設定の考え方・根拠	福島県内の新規小児がん発生数は年間20名程度、造血細胞移植目的に県外から7-8人/年、陽子線治療目的に県外から5-6人/年の患者を受け入れており、年間30数名の新規患者が発生する。現在、県内の小児血液・がん専門医数は3人と非常に少ないため、これらの患者に十分な医療を提供するために、今後4年の間に年間1人程度の専門医を養成することが必要と考えられる。また、過去の大学院志願者数および現在の小児科入局者数から毎年度1人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を1人/年と設定した。						